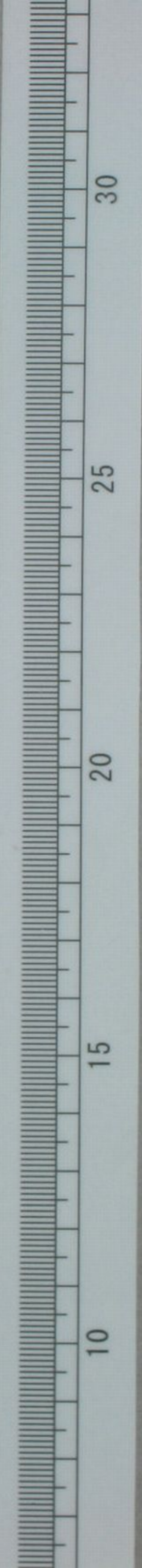


遠信  
儀武文業

自大正四年

特別  
14  
3152  
63



14  
3152  
63

通信者  
儀式文書  
自正四年三月二十日



95-120



上海郵便局新築及七電線開通ノ祝辭  
 コ、ニ長崎上海間海底電線開通ノ祝典ヲ舉行シ併也  
 シ上海郵便局局長ノ新築ヲ落成ス尚ニ是レ通信界ノ一大  
 盛事タルヲ示スナリ不時怡也嗜古ノ大禮ニ止テ慶賀ノ意  
 更ニ殷ナル者アリテ覺ユ  
 曩キニ帝國ガ支那政府及ビ大北大東ノ電信會社ニ對  
 シ電信問題ニ就テ會議ヲ求ムルヤソノ關係主管廳ハ  
 友愛ノ誠ヲ盡シテ我ガ提議ニ應ジ暮年ナラズシテ重要  
 ナル哉多ノ問題ヲ遺憾ナク解決シ大ニ善鄰ノ交誼ト通  
 高ノ致達トニ資スルトコアリ是レ亦長崎上海間海  
 底電線ハ舊服布設ノ工ヲ竣ハ本年一月一日ヨリ帝國電  
 信系ニ依ル電信交換ノ事務ヲ開始スルニ至シ今日ニ

ノ如機有之際上記ノ諸關係者並ニ我ノ總領事ノ韓旋  
 指導ニ對シテ特ニ感謝ノ敬意ヲ表明ス  
 飢フニ上海ハ東洋屈指ノ高峯地ニシテ當郵便向ノ我  
 ガ在外通信官署ニ對スルハ固ヨリ認メシ故ヲ以テ局中  
 ノ事務ハ年々進ラテ益シ加之今次電信事務ノ施設ニ値  
 フ規模ノ擴張ニ感ズルニ至リシハ必然ノ數トイフヘシ  
 仍ハ昨春以來局舎ノ新築ニ着手シ内外官民ノ有力ナ  
 ル援助ト尙長技師其他關係諸員ノ熱誠ナル經營トニ因  
 リ工費十五萬圓ヲ以テ之ニ其完成ヲ告クソノ將來之  
 他ノ機運ヲ誘致シ交通ノ存進ヲ促進スルニト蓋シ勲少  
 ナラズ今日ニシテ始ラズル亦決シテ徒爾ナラザルヲ確  
 信ス

終ニ臨ニテ當郵便向ノ徒輩員諸子ニ一言セシトス案  
 歳ハ日獨ノ艱難ヲ陪リテ今春ハ電信事務ノ開始セ  
 ルハアリ局務ノ繁忙ヲ來タセシトト東ニ推測ノ據ハ  
 リ而カモ諸子ハ境外ノ任タガ重キニ鑑ミ汝汝トシテ急  
 ラズルノ勤勞實ニ多トスベシ望ムルクハ益ス精ヲ勵マ  
 シ誠ニ效シ關係外國政府及ヒ會社ト協心戮力シ外ハ以  
 テ心算ノ便益ヲ増進シ内ハ以テ昭代ノ治化ヲ裨補シ克  
 ヲ國家ノ期待ニ副ハシメトテ諸子其レ旃ヲ思ヘ  
 年九月二十一日

海軍水産博覽會開會式祝辭

帝國ノ版圖ハ際ラスコ大瀛ノ水ヲ以テシ文化ノ進歩  
 ハ年ヲ過ラテ海運ノ盛ヲ促シテノ存達ノ跡今や漸ク觀  
 ルベキモノアリんニ庶幾シ然レト雖モ之ヲ列國ノ趨勢ニ  
 徴シテラ國家ノ將來ニ稽フルトキハ尙ホ擴張ノ位地ヲ  
 存シ居トシテ成コ安クバベキニ非ズ殊ニ今此ノ戦亂ニ  
 際シ帝國ニ於ケル海運ノ現狀ハ到底貿易ノ増進ニ伴フ  
 能ハカレノ感アリ加フルニ戰時ニ於ケル本國ノ必要  
 益ノ甚度ヲ高ルニ警覺ニ覺シレハ今後一層ノ存達ヲ  
 希望スルノ急愈ニ痛切ナルモノ無クシバアラス  
 凡ソ國家ニ於ケル一事業ノ振興ハハ何ノ種タルヲ  
 問ハス必ズ舉國上下ノ協力ニ俟タサレハカラス而シテ

此ノ如キ協力ハ國民一般ニシテノ思想ヲ善及スルノ必要  
 ナリ認識セシムルニ由ツテ始メテ實現セラレハキナ  
 リ今日海軍水産博覽會ノ開催ヲ見ル所ニテ徒爾ナラス  
 此ノ如クシテ國民ニ於テハカウカハル海軍思想ヲ向上  
 及ムルヲ得テテ將來ニ於テ存達ノ資スルノ多大ナル  
 カアラスニ能ハバ此種ノ開會ハ從來宜シク既ニ之アル  
 所ニシテ而カモ猶モ乏ナリトモノ本會ノ成立リ時代ノ  
 特殊ヲ修補シ得タレトモニシテマコトニ昭代ノ盛事  
 ルニ負カズ是レ本大臣ノ他官ニテ指シ能ハカレト  
 ナリ  
 二、本會ノ開催式ニ際シ聊カ微意ヲ陳シテ祝辭ト  
 爲シテノ效果ノ豫期以上ニ勤苦ナラシムルニトテ

海軍水産博覽會 鹿堂授賞式祝辭

海軍水産博覽會ノ審査方ニ結了シテ、之嘉辰ヲトシテ  
ニ褒賞授與スルニ舉行セラル

惟フニ本會ハ海軍ニ關スル此種ノ企畫中ノ先鞭ヲ  
著ケシモノナルニ拘ハラス施設ノ周匝ナシ經營ノ確實  
ナル共ニ開始スルトニテ殊ニ出品ノ精良精良ニシ  
テ他ニ多ク其御ヲ見サルハ品ヲ稱異スルニ宜ナシカ  
開會以來ノ成績頗ル新著ニシテ海軍思想ノ普及ニ裨  
益シタルト云ハレ極メテ多大ナルヤ若シ夫レ船用品ノ製  
造ニ就クテ改良ノ跡著クモアルニ至リテハ本大臣  
ノ深ク満足スルニ至リ

此りト誰モ海軍ノ事業タルヤ是ヲ激勉スルニ固シク  
競

争ノ一ニシテ日進月歩ニ極スルニ至リテハ  
本日受賞ノ諸君ノ榮譽ヲ世ニ炳耀スルニ至リテハ  
テ之ニ安シクナルトテク感奮精勵益々其業ノ發達ニ盡  
カセラシムトテ一言以テ祝辭トナス

帝國海軍協會第十六回定式總會式辭

帝國海軍協會ハ創立以來歲月ヲ經ルニトスルニ久シク  
 其ノ海軍ニ關スル諸般ノ經營ニ當リテハ研究施設ノ  
 諸般ノ概ルハ中々ノリテ其ノ時海軍ニ思想革新ノ一助  
 トシテ海軍ノ水産博覽會ヲ開催シテ其ノ效果ノ極メテ顯著  
 ナルハ本大臣ノ深ク満足スルニトスルナリ  
 惟ツテ帝國ノ海運ハ短日月ノ間ニ比較的長足ノ進歩  
 シタルト雖モ規模大ク狭小ノ猶ホ未ダシトイフハ  
 尤モシラ今自ノ實況ニ徴スルニ其ノ貿易上並ニ國防上區域  
 トスベキモノ亦少カラス是故ニ開港ノ補助セシムルニ  
 ハ江湖有為ノ力ニ待ツルニトシテ今後愈々大ナルモノナリ  
 然レドモ其ノ會員諸君決シテ其成ニ与ヘズ也 郵務勸業局長 益人

事業ノ伸張ヲ圖リ必ズ本會ノ目的ヲ貫徹セラルベキト  
 シコシテ或弊トナス

帝國水難救済會總會祝辭

この帝國水難救済會が大正四年度ノ通常總會ヲ開  
クニ際シ諸般ノ施設漸ク以テ整頓シテ、成績頗ル良  
ナリトノ報告ニ接シタルハ、本大臣ノ深ク満足スルト  
スベシ

イフマデモ、本會ノ事業ハ船舶ノ遭難ニ著リ、同情  
随ラ覺シテ人命財産ヲ救護セシムル目的トシテ

ニシテ、犧牲的精神ト博愛ノ大義トハ能ク勉メ  
ヨシ標ラ起クニシテ、此ノ旨ニ勉メヤカク

今や帝國ノ海運ハ歐洲戦亂ノ影響ヲ受ケテ、未嘗有  
ク此ノ如クノ時局ノ推移ニ一層ノ危険ヲ覺現スルニ至  
リントシ、従ツテ海上ノ事故今後ハ、多キヲ加フハ、救

ハ免シサルトスルニシテ、救護ノ必要愈々切ナルヲ  
リ望ムルハ、會員諸氏如上ノ情勢ニ鑑ミ、拮据勵精  
ツテ事業ノ大成ヲ期スルニエト



前島密君銅像除幕式祝辭

我カ帝國ノ通信事業ハ經濟ノ發軔ニ隨伴シ文明ノ起  
 點ヲ嚮導シ今日ニ於テ蒙恩シテ蒙極ナルトコトナリ今ヤ  
 世界的交通ノ官能ヲ完成シ國運ノ伸張ト相俾ルヲ念フ  
 民庶ノ福祉ヲ増進益セトス  
 推フニ明治以前ノ郵政ハ舊式ノ飛脚制度ニ依リ書翰  
 リ民間ノ私營ニ俾リ絶エテ規律ナク加フルニ信書ノ私  
 害ヲ保障スル能ハスツノ歲月ヲ經ンノ久シキ流弊百出  
 殆ンド言フニ堪ヘザルモノアリ  
 維新ノ初百廢悉ク舉ガリ典章新ニ成ルニ至リテ未カ郵  
 政ノ更革ニ意ヲ盡セシモノアリ前島密君ヒトリ此ノ見  
 ルトコトアリ率先シテ之ガ刷新ヲ企圖シ連リテ朝廷ニ

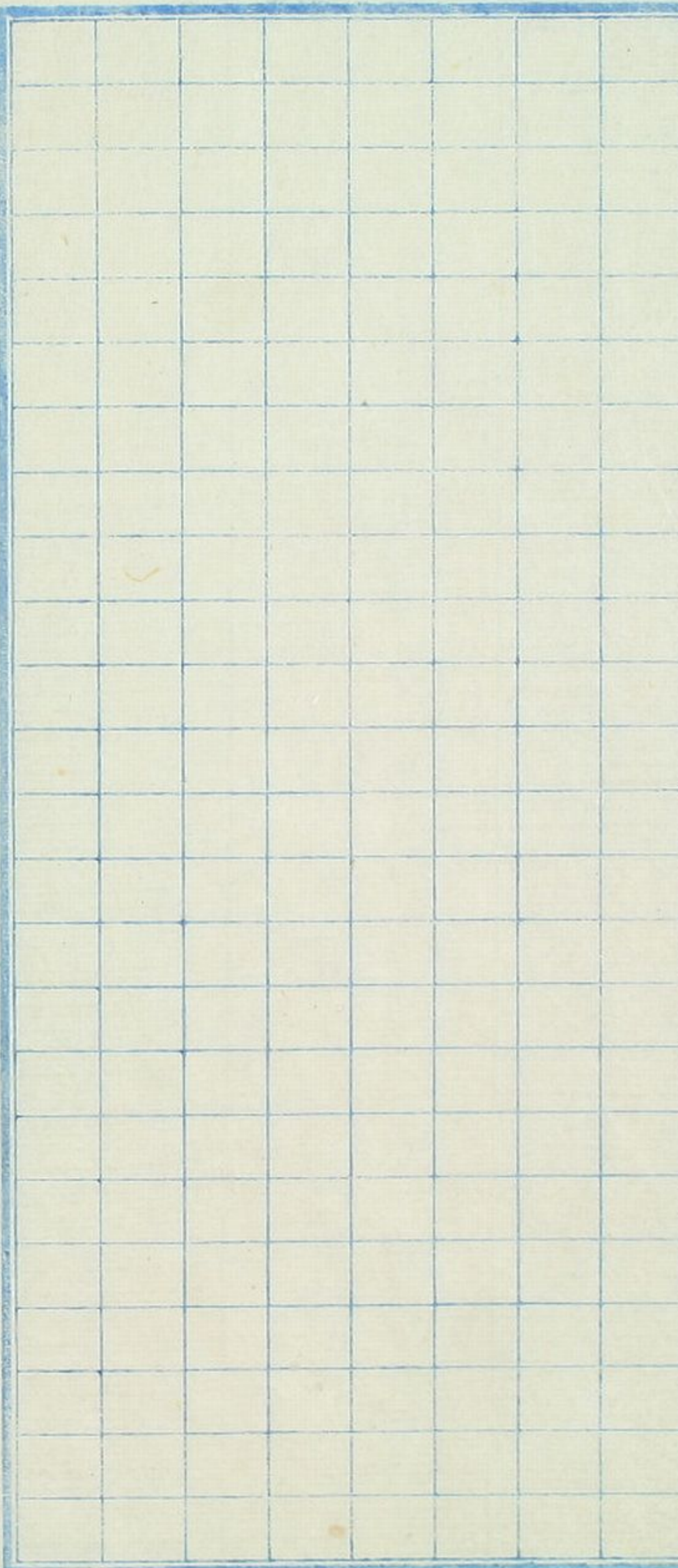
建白ニ夙夜執事遂ニ従来ノ陋習ヲ打破シテ歐美各國ニ  
 有テ施スル郵式ノ通信制度ヲ採用シ郵業ノ原則ト書翰ト  
 フヲ通知シ其弊ハシメテ備ハリ復々聞出スルトコトナリ  
 君ノ功績ノ偉大ナルニ由リ英國ノ郵務總監トシテ  
 トヒン獨國郵政長官トオンステアラシキ等ニ此ニシテ  
 延色アルヲ見ズ

君ノ官ニ在ルヤ驛道權正驛道總官ヲ任ラシメ通信官ニ  
 任シカツテ其職ヲ瞭ラセズ令も一世ニ著聞ス今日通信  
 事業ノ發達ヲ目睹スルモノ尚年創業ノ艱難ヲ想起シ君  
 ノ苦心經營多ク感嘆セザラズヤ  
 原者有志者相俾ルヲ君ノ銅像ニ我カ通信者構内ニ建  
 ツ置テ其容其新ヲ加フルハ刀如ク至誠厚ク氣を盡シ

トシテ肩宇ノ間ニ過ルノ秋ノ下萬人瞻仰ノ傳忽ヲ欲  
スルヤ必キ

爾

二、二、陰謀或ニ際シ聊カ無窮ヲ陳来テ三ヲ愛メト云



通信官更便所所分同卒業式祝辭

二二通信官更便所所分同卒業式祝辭  
新二百五十五名、卒業生ヲ出シタルハ、中大臣、信者格、  
能リケルトニナリ

今ヤ我々帝國ハ英露兩國ト協約ヲ締結シテ東洋ノ霸  
權ヲ握リ、同威坤輿ニ振ヒ萬里ノ外ニ航術ヲ求メテ將ニ  
世界的大活躍ヲ圖ラシトス、是レ豈ニ今載一遇ノ以テ時期  
ニ非スヤ、今時ニ際シ、國家前途ノ前途トナリ、授けら  
リ、又杜株トナルハキマ、通信事務、先ナルハ、  
ニ初便電信ノ開スル法、現ニ改正シ、頃ハ簡易保險無電  
信ノ新令ヲ以テ専ラ時勢ニ適應スルヲ務メ、對業ノ新  
團愈ヨリノ擴張ヲ見ルニ至リ、且モ、固ニ偶想ヲス


然り人雖も國家ノ恒業ハ自ら限り人物便俗ハ一義  
ニあり要る選用ニ就くテハ時ニ應重ナルヲ要ス  
力故ニ本年ノ如ク多敷ノ卒業生ヲ出シ何等ノ字ノ念ヲ  
ク對業ノ專政者ヲ忠ク敬誠セシムルハ誠ニ國家ノ一大  
慶事ト云ハサレハハカラス

凡ク進修事業ノ恒業ハ敏速ニ修平ニ且ク確意ナルハ  
リ加之剛運ノ振張ニ付リテ以善善友ヲ期スルハキニト固  
リリ強クシ是ニ於テ上下心ヲ一ニシ内外軌ヲ同シ  
其治節ヲ自在ニ其効果ヲ勸者ニシ以テ本来ノ目的ヲ  
達セシムルハ最モ緊要トナルトニナリ卒業生諸子ハ  
如上ノ趣旨ヲ心折ニ銘シ益々材能ヲ研磨シ徳操ヲ涵養  
シ精勵新舊ノノ輪者ヲ均リモセス以テ本所教育ノ恩ニ

報ヲ望ムテ國家ニ貢獻スルトコトナカルハカラス諸子  
幸ニ言ハ陳テハ付ケス日ニ三省セハ其強壯ニテ空ニ  
ナラズ而カモ其福祉ヒトリ諸子ノ一身ニ止コラスル下  
ニ乃ク之ヲ以テ祝辭ト為スト云爾

小樽局貯貯金支局開局式祝辭

小樽の貯貯金支局開局式祝辭  
 北海ノ地開拓カレラリ既ニ旨アリ諸般ノ施設漸ク  
 完備シ産業又大ニ振興スルニ至レリト雖ニ地域略闊ニ  
 シテ金融機關亦多ク善クハス貯蓄機關モ亦利便ヲ缺ク  
 ノ嫌アリ今次ノ地ニ貯貯金支局ヲ設置シ一般ノ民  
 ト最近際密ノ關係ノ人郵便貯貯金也郵便貯貯金ノ業  
 務ヲ開始スルニ因リ偶也ナラズ  
 蓋シ郵便貯貯金利便ノ初都ニ善ク存在スル郵便官  
 署ヲ利用シテ信託ヲ確實ニ決済シ送金ヲ便宜ナラシム  
 ルヲ目的トスルニ一ニシテハ創始後日十未済中二拘  
 ハラズ今下口府加ナ者七萬餘人受押年額八億圓ノ巨額

信託  
 十二日  


二達ニ向テ經濟上必要ノ機關タルニト今彼ニ對シテも

政府北海道ノ状況ニ鑑ミテ口府所管區域ノ増進ノ方

必要ヲ認メシカ種々ノ事情ニ依リテ久シク其進行  
 ヲ見サリしハ其ノ區域トスルニト口府ノ如ハ今や林  
 方ニ對シ本府近隣縣ニ於テ帝國議會ノ協賛ヲ得ルノ風  
 望ヲ達シ保セテ本道ニハ構テ之ニ對シテ令既テ人亦洋  
 事務ヲ妥當セシムルヲ以テ  
 所在ノ各界今後本機關ヲ利用セハ營業ニ業務ヲ甚盛ニ  
 シルノミナラス此邊ノ開發ニ益々進ムニ因リ國利民福  
 ヲ増進スル中ニト言テ保々人乃々之ヲ或辭トス

商船学校創立記念式祝辭

二、ニ商船学校創立記念式祝辭  
 一、言、商船学校  
 フルヲ、信、名、ハ、本、方、巨、ノ、德、善、措、リ、能、ハ、サ、ル、ト、口、ナ、リ  
 回、航、ス、レ、ハ、四、十、年、前、明、治、皇、朝、ノ、際、ニ、於、テ、ハ、我、カ、海、上  
 運、輸、ハ、大、抵、北、國、汽、船、ノ、獨、占、ニ、委、シ、同、々、本、邦、汽、船、ノ、乏、シ  
 位、ス、ハ、天、ノ、ア、ル、モ、航、海、運、用、ノ、術、ニ、乏、シ、テ、ハ、尚、ホ、外、方、ノ  
 指、揮、監、督、ニ、頼、ル、外、ナ、リ、キ、法、ニ、之、ラ、此、時、ニ、百、萬、噸、ノ、巨、船、  
 ナ、リ、ト、ス、ル、ハ、我、カ、汽、船、カ、強、シ、ト、全、部、ヲ、舉、ゲ、テ、同、胞、ノ、操、  
 縦、ニ、及、シ、我、カ、海、角、カ、到、ル、處、ニ、操、縦、ノ、技、能、ヲ、整、ヘ、シ、内、外、  
 ノ、聲、望、ヲ、持、ツ、ツ、ア、ル、事、業、ニ、對、比、シ、レ、バ、誠、ニ、國、世、ノ、威、  
 ナ、リ、シ、ハ、ア、ラ、ズ、ス  
 進、フ、ニ、海、運、ノ、隆、替、ハ、直、ニ、國、勢、ノ、倍、長、ニ、關、ス、レ、バ、天、海、

運、ノ、故、原、ハ、優、者、千、ハ、海、角、ノ、熱、練、ト、數、カ、ト、ニ、保、タ、サ、ル、ハ、  
 ナ、リ、ス、道、ニ、今、此、ノ、戦、亂、ニ、際、シ、テ、愈、ニ、此、感、ヲ、深、ラ、ス、ル、モ、  
 ナ、リ、

本校創立以來日、隆昌ニ赴キ有為ノ卒業生ヲ出スニ  
 ト、ス、ラ、シ、テ、今、亦、百、餘、名、本、邦、知、海、事、ニ、貢、獻、セ、シ、テ、決、シ、テ、  
 勤、勞、ニ、非、ズ、ト、雖、モ、一、々、ニ、戦、後、ノ、大、經、緯、ニ、想、到、ス、レ、バ、所、  
 シ、テ、刻、下、ノ、現、況、ヲ、以、テ、尚、足、ス、ト、キ、ト、非、ズ、是、レ、以、テ、職、ニ、  
 教授、ニ、當、リ、シ、諸、子、ヲ、今、後、益、ス、ル、奮、勵、力、ス、ル、ト、同、時、ニ、卒、  
 業、生、諸、子、モ、亦、之、ノ、以、來、命、ニ、附、シ、哲、ウ、テ、艱、險、ヲ、憚、ラ、ス、  
 重、信、實、里、ノ、上、ニ、在、リ、テ、強、要、ト、シ、船、務、ノ、限、ニ、國、家、的、供、命、  
 ノ、一、部、ヲ、擔、持、ス、ル、中、ノ、國、ア、リ、強、ク、シ、此、ノ、以、テ、諸、子、  
 ノ、仕、務、カ、國、家、清、長、ト、相、メ、テ、密、接、ノ、關係、ヲ、有、ル、ル、ニ、ト、

了自覚の奮って林カ海運ノ為ニ力ヲ盡シテ異常ノ功  
 績ヲ著セテ名譽アル母叔ノ歴史ヲシテ一層ノ光彩ヲ放シ  
 シヤルヲ得ハ何ノ幸カ之ニ如カニ是し本大臣ノ今日待  
 トシテ以テモラシテ想ヲ以テるハ所由ナリ活于今之  
 ヲ深也日

遠東航船の開業式祝辞

遠東航船所方ニ其工ヲ竣ル本日ヲトシテ開業式ヲ奉  
 シ

柳元航海ノ送船トハ輻輳ノ開港ナリ高クモ保立ス  
 ルニ非サレハ海運ノ完全ナル存達ヲ期シ難シ帝國ノ海  
 運ハ既往ニ於テ比較的長足ノ進歩ヲ成シ殊ニ今次北  
 大航船ノ新開業トテ異常ノ活躍ヲ見ルに至リト班  
 元航船ノ不足ヲ奈ナクトモニ難ク造船能力ノ増大ヲ渴  
 望スルニ下ト烈下願ハ堅切ナルモノアリ是時ニ當リ本所  
 ノ竣工ニ値フヲ喜ムルハ本大臣ノ慶賀ニ措カサルト  
 二のナリ  
 惟フニ北國海上ノ競争ハ戦後一層劇甚スルハナリ故ニ

進歩の暇時、始末の客ササレハ必ヤリ御心ヲクハ律  
所従業ノ諸子拮据勵精善ク大節ノ越クトコトク存心  
當時宜シ直ニ以テ帝國海運ノ進歩ニ有獻スル念ハ大  
ニシテトク御カ者望ミ進ムテ祝辭トス

日本海員振濟會分三十六回定式總會式辭

海運ノ健全トシテ若クハ亦一ニ船舶ノ改善必カ其  
振興ノ任ニ當ルハ本會者凡ソ海員ノ養成ニ待チサレハ  
カコトス

帝國ノ暇時ハ時節ノ變々マ受ケテ航海ノ範圍ヲ擴大  
シテ其益益々増シテ直ニカコトニ於テ技能者兩ツカ  
振興トシテ海員ヲ要スルニトシテ昔々お目ノ比ニ非ス  
而シテ  
勉メテ其供給ニ少ク需用ト相効リヤルハ感アリ或ハ  
必シ進ムラ帝國海運ノ發展ヲ阻害セシムトシテ  
日本海員振濟會ハ海員ノ養成ヲ主トシ保セテ其任  
務ニ任セシメテ前年より國運ノ振興ニ有獻セシメ  
ト振興也ス今ヤ時勢ノ變々ハ本會ノ責任ラシテ一層

し里キヲ加つと入りり一信員諸は支々世運の順逆の益人  
 則昔ノ為ニ存命せし二二トヲ之ヲ或辭トスル

吊辭

大正六年七月丁卯南松学校初任返任尋常小学校  
 次印君病ヲ以テ世を去らん嗚呼哀哉君は生涯ニシテ  
 沈黙シテ世に知られず風俗ハ同人ノ幸ニ推重シテ措カサル  
 トニ風ニ誘ハレ母夜ニ夢シ教壇ニ以テ講スル人ト共ニ幹  
 事ノ重任ニ任ズリ校務ノ行方ニ知ルハ二十有餘年本  
 校カ今も海運界ノ模範トシテ斯界ニ里キヲあそび  
 しの偏ニ君カ功績ヲ推ス令や校カ海運ノ將ニ一方君  
 ニカカシメシ本校モ亦多量ノ君ノ勇カト人知トシ候  
 アンノ時ニ世ニ名留メテ彼等ヲ招ク向ニ痛恨ノ極ト  
 イフハシとせし能ク果カ多量ニ撫育セシ子弟ハ皆要職ニ  
 就クヲ校カ海運ニ貢献シ終ニ君カ勤待ニ答ハス君カ終



生ノ事業亦多ク古ノ魁地人子ノアツク君以テ暇ニ  
茲ニ道ニテ布録ニ世ガ

式録

本日通信官吏練習所ヲ九回卒業證書授与式ニ臨ミ總  
員百二十八名ノ成業ニテ我カ通信事業ニ新人オツ加フ  
ルヲ見ルハ本方臣ノ深ク慶望スルトスヤナリ  
刻下我カ通信事業ノ振古其比ヲ見ガ而テ更  
ニ一層ノ發展ヲ為サントス凡ク事業ノ成否ハ純ク其人  
ニ存シ待ニ其強ク成テ果シトス故ニ其業ノ如キハ練習所  
良ノ吏員ニ待ツト最モ切ナキ一アリ此時ニ當リ活  
子ハ其業方ニ成リ意氣鬱鬱以テ其業ニ従事セントス  
其為途ニ海運ニトス口言ニ少シナランヤ  
唯々夫レ其業ハ汎ク内外ニ亘リ正確迅速ヲ旨トシ其  
海運範圍強クト富強ナルトニ口ナク者事者ノ責務重大

十八子ト云フ侯タス 依子約多ク 本外教養ノ趣旨ヲ思ヒ  
 自己ノ本邦ヲ懐ク 括括屬邦 藝之國家ニ酬ニルト共ニ  
 長シハニ本邦ノ支障ヲ空シラセサラニエトナリト共ニ  
 一ニ言ハテ設法トナス

開本式取給

閣下五ニ諸君  
 化學工業博覽會方ニ設備ノ完成ヲ告ケ本日朝野縉紳ノ  
 黃腕ヲ厚クシ茲ニ開會式ヲ舉グルヲ得タリ抑モ本博覽  
 會ニ從來幾多ノ博覽會ト稍ヤ其趣ヲ異ニシ純ニ科學ノ  
 應用及ビ技術ノ施行ヨリ成レル斬新重要ノ物品ヲ蒐集  
 シテ陳列シ平易簡明ナル解説ヲ附シ科學思想ノ普及ヲ  
 圖ント共ニ刻下ノ急務ヲ人化學工業ノ發達獨立ニ資セ  
 ントス故ラ以テ華美巧麗眼ヲ悦バシムルモノカシト云  
 モノトシテ人智ノ成功ヲ示シ學術ノ發達ヲ語ラザルモ  
 ノナシ本博覽會ノ趣旨ハ早クテハ官民一腔ノ賛助ニ  
 所トナリ去名ハ終期以上ノ成績ヲ示シ其區域ハ本土ノ

外朝野三藩様太閤東あつたる者い百麻ヲ除キテ七  
 百二十三名結は敷三十四款四方一千三百三十六名及  
 ビ止らり得ずシテ謝絶セシモノホタ敷ん多シク如キ  
 盛大ナン業次ヲ見ルニ正リシハ時澤直ヲ然ラシメト  
 雖モ關係者情々ノ熱誠再々嚙ワテ力アリ然ハクハ今後  
 更ニ各位ノ接ゆニ依リテ投立ニ趣旨ヲ貫徹シ申ス所期  
 効果ヲ奏ゲンコトヲ乃チ満腔ノ感謝ヲ表シテ式辭ト  
 爲ス

書

出居人結代答辭

本日化學工業博覽會ノ開會ノ際ニ結裁開キテ始メ諸  
 名才ノ来臨ヲ辱ウシ併セテ懇篤ナリ告辭ヲ賜ハルル  
 人ノ光榮何物カ之ヲ若カシ謹シク名論ヲ辨シ農産力ヲ  
 展ヘ格据經營誓ッテ所期ノ効果ヲ奏ゲンコトヲ期ス乃  
 午之ヲ答辭ト爲ス

化学工業博覧會審査式會長式詳

化学工業博覧會審査式了々告々本日朝野貴紳、貴臨ヲ  
辱らシ茲ニ褒賞授與式ヲ奉行スルハ洵ニ光栄ノ極ト謂  
フベシ

鑑ミテ

本會ハ時局ノ大勢ニ因催シタルモノニテ規模未ダ大ト  
ナスニ足ラス設備未ダ全シト謂フヲ得サレトモ朝野一  
般ノ賛襄ト出品各位ノ奮勵トニ依リテ豫期以上ノ結  
果ヲ收メ就中南會未ダ發進ヲサレニ暴風雨ノ厄ニ值リ  
テ物カラサレ損害ヲ被リ尋イテ秋霖連旬晴天ヲ見ルコ  
ト極メラ稀ナルニ拘ラス親覽者日々齎集シ遠クハ新領  
土各地ヨリスルモノ亦少カラズ是レ本會ノ為ニ慶賀  
措ク能ハサル所ナリ今ヤ審査官各位ノ励精ニ因リテ場

内教万ノ出品ハ一目ノ下ニ優劣ヲ判明セリ受賞諸氏ハ  
 今後其事業ニ向テ責任ノ一層重キラ感スヘク其他一  
 般亦奮ツニ努カスル所ナカレバカラス此ノ如ク  
 ニレテ粗ナルモノヲ漸ク精ニ精ナルモノハ愈日精ニ  
 本會ノ目的始メテ達シ有終ノ美義ハクハ清スヲ得  
 聊カ所感ヲ陳ヘラ式辞トス  
 亦  
 此ノ心成カ  
 進歩  
 精進  
 此ノ心成カ

進歩精進此ノ心成カ

出品人総代答辞

此ノ工業博覧會審査終了ヲ告ゲ茲ニ復賞授與式ヲ舉行  
 之總裁閣下ヨリ懇篤ナル告辭ヲ賜ハリタルハ某等ノ特  
 ニ光榮トスル所ナリ  
 今ヤ格別ノ大勸ハ化学工業ノ榮達ヲ促進スルノ秋ニ際  
 テ其等謹ニ高潔ヲ體シ拮据勵精ヲ勉メ今日ノ寵遇  
 ヲ感シラセサシムトトテ題セニシニ此ヲ答辞トス

電氣博覽會開會祝辭

本日電氣博覽會、開會ニ際シ茲ニ参列スル者ハ  
 本官ノ欣喜措ク能ハカルトス  
 近時電氣ノ利用日ニ盛ニシテ其力知電氣業ノ進歩亦  
 止ムルコトナク知云云最近迄及工業ノ隆興ニ促サレ  
 ヲル動力ノ電氣化外國品ノ輸入杜絶ニ起因ヤ電氣業  
 化学工業ノ勃興不尠研究ノ結果日久無窮電信電話ノ  
 完成ノ如キ降ツテ電燈電車ノ普及電信電話ノ擴張ノ如  
 キ其爲後ノ影響者ニシテ三ツ十年亦其比方レハ完  
 トシテ隔世ノ感アリ也ト雖モ其知ノ電氣業ハ創始日  
 有キ際ニ臨西ノ現況ニ鑑ミシハ或多ク改善ニ要スルモノ  
 孰中電力ノ経済的利用方法又講究シテ迄及工業ノ普及

電氣博覽會  
 開會祝辭  
 本日電氣博覽會  
 開會ニ際シ

〇 電業工学工業界ノ基礎ヲ確立シテ刻下ノ盛況ヲ持  
 信セシメ電氣用品ノ海外市場ニ於ケル確保ニノ力ヲ  
 其取次ク擴張スル事爲シ其後久シク爲ル  
 且向以本電氣協会主催ノ下ニ電氣特設会ノ開催ヲ見  
 づかん其趣旨ヲ知電氣事業各方面ノ現況ヲ此會一  
 概ニ周知セシメ電氣ノ利用ヲ周知シ善爲ニ關シ  
 ト共ニ對策ヲ策シ若草ニ盛ニシテ在リ必チ是レ  
 洵ニ時宜ニ適シク人々ノ好個ノ施設ニシテ予ハ本會カ必ス  
 此期ノ目的ヲ達スル事ノ確信シ更ニ進メテ林野ノ電氣化  
 一新紀元ヲ劃スルニ至ルコトヲ期望シテ已ラス  
 一言所懐ヲ述ブテ祝辭トス

大阪化學工業博覧會開會式式辭

大阪化學工業博覧會開會式式辭  
 開會式ヲ舉ゲ

本博覧會ハ大阪商會後所ノ主催ニ俾リ化學工業ノ  
 発達獨立ヲ促進シ併セテ科學思想ノ普及ニ増ハルヲ厚  
 ニ望ム所ニ於テハ本年東都ニ於テ早巳同一ノ施設ヲ爲セ  
 シ者アリ先般ノ功業ヨリ一著ヲ載ヤト雖モ此ノ設備  
 ノ完全ト品目ノ豊富トニ至リテハ或ハ彼ヲ凌駕シテ後  
 ニ生面ヲ開ク者ナルカ如ク青草若ク若心勤勞洵ニ多トス  
 ハシ國西ニ於ルル其業ノ現況亦夕客易ニ其一斑ヲ窺フ  
 ン得ヤシ  
 凡ハ事物ノ進歩ハ一人ニシテ競争ノ結果ニ依リルナク



親ウテ汝刺ノ生氣ヲ缺カバ准カテ奏願アルノ事ハ關係  
 諸氏ノ執誠支ク本會ノ趣旨ヲ忠實ニ圖東ノ工業界ト相  
 違ヒテ各其美ヲ競ヒ切刷磨能ク飾野業ニ一新紀元ヲ創  
 出ル由アシトテモテモテモ  
 身軀カ妙懐ヲ陣ノニ式辭トラス

式辭

花ニ亭園水難救濟會分二十五回通常總會ニ此ニ奉旨  
 一事業カ普隆盛ニ赴キソハアルノ報告ヲ好ムルハ本  
 大臣ノ他幸トスル所ナリ  
 今夫シ海運ノ發展ヲ期セシト欲セハ海上ノ災厄ヲ除  
 去シ航海ノ安全ヲ維持スル施設ヲ急務トス比年船加ノ  
 劇增ハ航海ノ難點ニシテ行ツテ海難ニ亦多ク信多カ  
 トス此ノ如キハ兼山自カノ數ニシテ本會ノ事業カ殆  
 一層ノ重要ヲ加フハトモモモモモモモモモモモモモモモモ  
 三ノ時向ノ過~~ル~~採ニ付ラシ海難救濟ノ事業ヲ自ラ興  
 常ノ善達ニ~~テ~~ニ為セ~~ル~~一莫ハクハ各員諸子益々奮勵シ  
 ナカラシ~~ニ~~君サレニ~~ニ~~ト~~ラ~~

手書難辭陣ノニ式辭トラス  
 コシラ



式辭

コ、佳辰ヲトシ東京高工業校創立十周年記念祝賀  
 會ヲ舉ゲルニ値フハ吾々衷心欣喜ニ堪ハサル所ナリ  
 惟フニ商工ノ興替ハ國運ノ消長ニ關スルヲ極メテ大  
 而カモ先趨後隨固クハ最良ノ最善ノ學理ヲ修得シ業ヲ  
 世界に流シ大揚シ通ルハ一人ノ活動ニ俟タサルヲカス  
 殊ニ刻下ノ時局ニ之ヲ要出スルニ至リ蓋切ナクナリ  
 欲レバ本校ハ以テ廿六年ノ創立ニ俟リ汎ク高業ニ業  
 更業ニ本ノ各科ニ至リテ皆最良最善ニ卒業ヲ出スニト  
 一々五五名ノ如ク立ツヤ誠ニ可貴ノ學術ヲ應用  
 ニ拔ク高業ノ進歩ニ貢獻ヤニト蓋シ物ナラズ今  
 ヤ校運ニ年々進歩シテ進々進々ニ見ルヲ以テ人々ハ

職名諸君乃ヒ卒業ニ協カカセ心協力シノ進歩ニ務メ  
 結果ニ外ナシス  
 庶ハリハ更ニ奮勵シテカク國家ノ隆昌ニ致サレンコ  
 トナ一言以テ祝辭ト爲ス

式部

日本海員振濟會第三十七回定式總會、昨日本會、事  
業成績益良好トシトノ報告ヲ行ハシ、本大臣、御幸ト  
スル所ナリ

今や晴吉ノ時局ハ海運ノ擴張ヲ促シ、切リ、此ノ航  
船ハ現ニ英國ノ為ニ重要ニシ、航運ニシテ、將來ニ御幸  
ト協同シラ、世界ノ海運事業、日一却テ負担スルナリ、航運ニ  
臨ミ、技術優者、人船負テ、要スル所トシ、益ニ切、而シテ、社  
リ、此ノ益、之カ補充ニ、若シ、之ヲ、ハ、誰カ、能ク、遠域ノ、海  
カ、ラ、シ、コ、ト、本會カ、紀律、節制、ヲ、以、テ、重ク、シ、ル、所、ナリ、航  
運ニ、シ、テ、是、レ、カ、力、カ、サ、シ、テ、善、通、海、運、上、存、心、所、ナリ、誠、立、テ、事、業、手  
ニ、シ、テ、ハ、減、少、ノ、機、宜、ニ、適、シ、ク、シ、テ、務、業、ニ、シ、テ、更、ニ、善、信、ト、大

陶治

ラ、四、八、人、ヲ、見、シ、テ、今日、此、子、あり、リ、人、時、而、況、状、ニ、似、テ、  
日本會ノ事業、大、剛、軍、ノ、進、陣、長、ト、モ、稱、シ、同、存、シ、テ、  
物、ノ、之、多、ク、益、ス、ル、所、多、ク、其、為、也、ト、指、蒙、お、カ、シ、ン  
ト、ト、テ、コレ、ヲ、式、部、ト、ス、ル

航

況

帝國海軍協會が十八回定本總會式終  
 経日ソ成積大ニ觀ルベキ者アルハ本大臣ノ他幸トクニ  
 此ナリ  
 運、陸、海、空、各ノ關係ヲ有スルハト  
 ハ刻下ノ現況ニ鑑ミテ愈々明白ニシテ、  
 前途者亦遠達シテ、  
 協心、  
 效カレシコトヲ是ヲ式終ト為ス

大坂化学工業博覽會授賞式祝辭

是コ大坂化学工業博覽會ノ開會ニ際シテ予ハ御力甚大ニ  
 裁シテ祝意ヲ表シ併セテ其成功ヲ期スル旨ニ述ベテ  
 シカモ其奉還平中ニ空ニカニテ、  
 シキル有ルハ益定ニ至シ今ヤ多クハ出品ハ固則御力ニ  
 此高重ニシテ本日在座者授賞式ヲ奉テ唱辭所衷ニ全期  
 際了ラ告ケントス予ハ衷心より、  
 同時ニ書畫自傳紙、  
 能ヒバ、  
 日ニ其ノ月ニ改メ、  
 諸君快ニテ現況ニ安ニ入益ス高御力ニテ此業ノ前途  
 之圖ヲ豫メ計置、

家老報の改刊と祝す

家老報の改刊は洵に時宜に過したる破天荒の一大事  
 業にしてその経緯もまた中島君の目的と抱負とは同一  
 情に難からず加ふるに君の望望たる多量の経緯の  
 正戸外をとおつたの牛脚とはよく成功を豫期しん  
 増進し海をこえて東洋の平和に貢献せしむることも  
 祝す

相成辞

山形は昔時金ある一應金計持ち方エラ  
 或ラキウ

惟フニ国力を元奮力老業ノ振作ヲ  
 助善及ニ金配株園ノ完備ニ付  
 勢之望ニ頼シ経済ノ趨向ニ傍  
 感ヤスシハアコゾ

此海ノ用敷エテニ年所ノ歴々種々  
 ニシ住民ノ向カ立増殖ヤリト雖  
 ラ起スル以社力業ニ全道老業  
 此の増進を大局に認むるん  
 故にもししド又山形に改ノ斯業  
 期待あり

此の増進を大局に認むるん

少の要一般地五七臨舎う寄附とテ三カ完成ラ助ケ位其  
 事迄之始メ下級ノ設備整ヘト遺憾キテ見ハ  
 官民協力比テ遠國ヲ全クセトクン誠意ノ發見ニシテ  
 本大臣ノ厚ク此幸トクンルナリ  
 舊ハクハ將來ノ模範ノ利用ニ依リテ益ス産業ノ振  
 興ニ寄附シテ一テ全道ノ開發ヲ助長セクニトテ一  
 一寄附ノ道ヲテ或釋トス

政略

本立川崎高松各校、造幣所之其工ヲ後ノ位ニ委ネテ  
 卜シテ開校ノ式ヲ奉ク  
 今夫レ海運ノ隆替ハ國勢ノ消長ト密ニ關係ナリ  
 而シテ海運共ノ伸張ハ一ニ修考シテ海運ノ技術ヲ勉力  
 トシ候ルハ要ス因テ本國ノ海運ハ既ニ整ラ申候所  
 止ニ進歩中ニ刻下ノ時局ニ際シテ異常ノ活動ノあり  
 能ク也各ノ自目ニ修飾スル時ニ至ルハ海運ノ補完ニ寄  
 与ル中ニ修飾ノ遺憾ナクシテ是時ニ至ルニ本校能  
 設ク完備スルハ本大臣ノ厚ク慶賀スルナリ  
 惟テコレ開海上ノ競争ハ今後一層ノ激烈ナリ候  
 海運ノ善後ニ寄附シテ海運ノ發展ヲ助メテ本校

其  
 其  
 其

式辭

米澤御伊内ノ新築工事方ニ請リ本日前成ノ式ヲ奉ケ  
 惟フニ米澤市ハ東北扼要ノ位置ニ在リテ四方交通ノ  
 中心ナルノ事ナリ其物産ノ饒富ニシテ品物ノ精良トシ  
 世々トテニ定評アリ而シテ之ヲ四方ニ輸出スルハ固信  
 哉同ヲ先トシテ固ヨリ強クシテ向後諸子道ニシテ思フ  
 茲ニ致シ殖産興業ノ者達ニ望セニコトヲ期スベシ  
 以テ爰ノ後諸子ハ壯盛ナリ御高命ニ在リテ日祖御孫ヲ  
 敬人親ハク至士臣深ク之ヲ慕ハス今ヤ向後諸子道ニシテ  
 務メ御和儀ヲ奉ルノ儀ニ非ズ此際紀養ヲ致スルニシテ  
 其儀甚ラ盛ニ流布速ク方トシテ而ク天降降運候ノ儀ト  
 下ラシメテ之ヲ一々以テ式辭トス

同儀御上持候御格善方勢ノ留ッルノ事ニ付  
 高ク之ヲ以テ吾國海運ノ振作ニ至献スル所アリ  
 トラ下書奉御。御和儀ノ際ニテ祝辭トス  
 無言

式辭

初島島仲島 新坐正方之端り 茲之佳辰ヲトシテ 為成ノ  
式ヲ舉グ

抑之憂務之常り 踰境ヲ舉グ<sup>紅</sup>ニハ 臨命ノ播送施  
亦多及不 其宜ニキテ 信ルニ要ス 孰命命ノ 百兩蓋儀ノ  
ヲ給ニト 同如スルニキハ 為留者ノ 候 誓心河ニ ありて  
且ツ方レ 通信業務ノ 必要ノ 候 誓心河ニ ありて  
乃此ヲ 主要ノ 目的ノ 為ニト 同テ 新ニ 信ルニ 要ス  
ヲ奉リテ 平和 克敬ノ 期ニ 至スニ 至テ 誓心河ニ ありて  
加フニ 上ニ 候ニ 候 誓心河ニ ありて 新ニ 信ルニ 要ス  
白の 階等ニ 候ニ 候 誓心河ニ ありて 新ニ 信ルニ 要ス  
惟孝ノ 徳也 相奉ル 候 誓心河ニ ありて 新ニ 信ルニ 要ス

書

望シテ 活子 其 担 要 事務ノ 分 擔 點 々ニ  
自覺シ 御用 事務ノ 担 要 事務ノ 分 擔 點 々ニ  
ト正 確トシ 以テ 關係ノ 者 點 々ニ  
林 際ニ 御カ 以 候 誓心河ニ ありて 新ニ 信ルニ 要ス

武録

名古屋中央電氣局の管内、新設工場の竣工、本日より  
し、各工場に落成、或る事あり

情に通信事業、定例の設備、充ち上り、夫れ、結  
勤に、候中、待たし、多し、新設の管、格、千、百、兩

苦痛、より、事、進行上、些、の、遺、憾、あり、向、の、年、  
より、  
其、  
其、

今、中、社、事、の、進、退、之、付、に、事、務、特、に、一、層、の、解、脱、を、期、す、  
望、ま、る、に、從、事、多、く、亦、之、を、各、部、門、力、に、之、を、取、扱、す、  
水、取、の、目、こ、し、に、  
御、心、配、を、申、上、り、申、上、り、申、上、り、

各、部、門、場

武録

大阪府立高等海員養成所の方、其工ヲ、修、り、本、日、ヲ、ト、シ、  
之、開、所、或、ラ、事、業、ナ、ク

惟、つ、に、國、勢、の、消、長、ハ、海、運、ノ、隆、替、に、係、り、之、を、知、ル、ハ、海、  
運、ノ、盛、衰、ハ、優、劣、に、有、關、ノ、海、員、之、係、ヲ、サ、ル、ハ、カ、ラ、ズ、今、  
ヤ、中、東、ノ、戰、局、知、メ、テ、決、り、與、國、ト、共、ニ、平、和、ノ、高、懸、之、の、事、  
ニ、ト、ス、ル、ニ、方、リ、海、上、ノ、盛、衰、ハ、亦、之、に、係、リ、加、フ、ハ、之、を、  
テ、海、員、ノ、需、求、ハ、益、々、切、ラ、ス、ト、ス、此、際、本、所、ノ、開、修、ヲ、見、  
タ、ル、ハ、尚、ニ、機、宜、ニ、適、シ、見、指、導、ト、ス、ル、ハ、尤、モ、切、要、ノ、為、ニ、

度、階、ノ、三、ニ、勝、ハ、ス、故、ニ、ハ、同、係、諸、君、子、戮、力、を、申、上、り、以、テ、  
三、帝、國、ノ、進、退、之、を、蒙、セ、ラ、シ、ム、コ、ト、ヲ、一、ニ、以、テ、祝、賀、ト、ス、ル、

(右、同)

三、帝、國、ノ、進、退、之、を、蒙、セ、ラ、シ、ム、コ、ト、ヲ、一、ニ、以、テ、祝、賀、ト、ス、ル、



海運

本由古海行立了等海号成所以開の成り奉行せりん  
 の世に漸く況辭を呈らん、棧の成らん牛友、充業と  
 りん所より  
 多國最也、海運ハ最ニ、進歩の爲に併之時の用居以  
 未~~由~~多敷、社外強カ遠ク運効の速イテ此来各港同  
 航行の経事之多國海上權ヲ伸張せん共ニ輸送與  
 國ノ爲ニ物價軍需而和、輸送ニ當リ以留去日乘船ノ  
 中天化幣之限と久ハ海毛船着ん事あることヲ我カ海運大  
 上ニ一新時期ヲ劃せんモノナリ、從テ運送事業ノ如  
 才元未だ有るノ爲運送事業ノ運送船、船積ハ海運  
 爲運送ノ他より才元又ノリ、今や平和ノ成を待て進歩せり

十二  
 八十四

リ

在ることも海上、競争ハ果之激烈ヲ加、取極打叩時、勝者  
 必経後者せん多敷、海をテ具商せんモノ、最ニ重要  
 ナリ、故ク輸送信、船力天ヲ過者、信託の強シ  
 以在、實況之微及ニ、海員ノ養成が往々問題也、ハ、  
 傾向ハ、河ニ運船ノ程トナリ、  
 本由南丁北印の風ニ此國狀ニ似テ、本處爲るべき人  
 令國に即君亦多ク先志ヲ继承シ巨費ヲ投テ之、  
 本所、強立ッ、此、如干ハ、希有ノ美事ト極ムル  
 物、林ノ海運界ノ爲ニ善ヤ人、急ニ強ラズモノ、  
 眞ハ、國係諸君、本所ノ事業乃海運ノ振興ニ對シテ、  
 寄附ノ國係有らん、急ニ強ラズモノ、  
 必其効果果ラシキ

道

武彙

茲之帝國水難所倚命古正八年所遭事何會ノ用能之  
 此之活版ノ施設信之體物之成結事能之候良人ヲ目睛之  
 又ハ本古臣ノ深能也久クナリ  
 今々宇田事來ノ執札也其向ノ欲メ之トシテ此所病之病  
 之ノ産業貿易ノ振興之旨有意之也今ノ海上交通ノ便  
 爲之被難事來多ト其之内外船船ノ活能之信進シ海ノ利  
 危險ニ遭遇スル候會ニ亦多自ラ船多クナリテ其力  
 取所持固ニ必要也之ノ層々加フハ亦且ノ事之トシテ其  
 本層ノ施設之候所相メテ其大ニ難クハ其力ノ不足  
 活子ノ上ノ佳勢ニ望ミテ 叔叔御指以テ事業ノ完成  
 不題口スルニトナラ

武彙

日本海員植務命ノ多年海員ノ養成係獲ニ意欲シハノ  
 成績大ニ觀ルルキモノハ本大臣ノ御事トシテ  
 幸爾最近ノ海運ノ長足ノ進歩ヲ爲シ其之時向用家ハ不  
 多敷ノ船舶ガ遠ク運搬ヲ要スル所來各港間ノ航行ニ從  
 事シ夫レ其力海上權ヲ伸張シ人ハ船也船者人ノ事也  
 下リ御事レハ平知命立付ニ止テ之任ヲトシテ其海上  
 ノ發達ノ御事トシテ其力海上權ヲ伸張シ人ハ船也船者人ノ事也  
 候ルル此時主事ノ技能修養トシテ其力海上權ヲ伸張シ人ハ船也  
 日之月々增加スル候所ノ運航ニ此レ其力海上權ヲ伸張シ人ハ船也  
 之刻下ノ最大急務ナリ 而シテ其力海上權ヲ伸張シ人ハ船也  
 其力海上權ヲ伸張シ人ハ船也 其力海上權ヲ伸張シ人ハ船也

此の如く見れば、今迄の海軍の発展は、本會の事業の國運の  
 前途と密接の關係がある。一軍の強弱は、國の強弱に  
 直に影響する。御意に力をおこし、己の武裝を整へ

武裝

帝國海軍協會の海軍の發達(改善)の圖ルが為ニシテ、創立  
 以來、其の事業ニ貢獻セシメ、ト鮮明ナリトセズ、且、時勢の變遷  
 國ヲ加ヘ施設益々整備シ、殊ニ今期ニ於テ、其の進歩ハ、  
 驚ク多クハ、牙大匠ノ欣幸トスル所ナリ。  
 然レモ、シテ帝國海軍の時局ノ艱難ニ因リテ、異常に進  
 境ヲ示シ、世々各地ニ其ノ航路ニ隔メ、是故、事業ニ立  
 ヲ阻ハシメ、空海ノ盛況ニ見ハシムルニ至リ、且、海軍ニ因リテ  
 其ノ利益ニ満足スベキニ非ズ、今や世界ノ戦亂ハ、殊ニ其の而  
 ヲ收メ、トシ、強等ニシテ、産業貿易ノ振興ニ留意シ、孰中、海軍ニ  
 關シテ、其の益々多シテ、其ノ計畫ノ次第ヲ進メ、トス、材料ノ  
 供給ヲモ、必ず之ニ輸ヤガムルヲ要ス、如クモ、其ノ時勢ニ

実ヲ要スル市場始ハ多ク本字ノ責務亦其ノ重ナク加  
 フルモノアリ 望々クハ理事者諸子同心協力本字  
 専任ノ責ヲ 剛運ノ伸張ニ勤メキ 兼團ヲ為サレトス  
 若シ 平年ノ同定式總年ニ此ニ一言ヲ陳メテ式終ニ  
 入ル

祝辭

茲ニ世界平和、確立ラ度スルノ佳辰ニ方リ、東京市  
 中ノ商社商店ニ於テハ 二十五年以上勤信者ノ志氣式々奉  
 新白ん

惟ッニ勤信ノ練熟ノ基礎ニシテ 練熟ハ成功ノ要素ナリ  
 政州大乳ニ来我カ奮業界ノ異者ナシ 勤信ニ依リ 奉世即  
 天石レバ 字輩ニ依リ 高利ヲ越ハントスル 右如ク多キニ此  
 ニ諸子カ 獨リ今自ノ 業ヲ 爲メハ 確ニ 瑞ノ 一計ナ  
 ルベシ。

有者ノ 管理スル 進信 勤内ヲ 精ラズ 多敷ノ 従業者ナリ  
 之其ノ 特殊ノ 技能ハ 主トシテ 十分ニ 練熟ニ 待メルナリ 本  
 日 多量ノ 諸子ガ 之ニ 對シテ 誠ニ 適切ニ 此ヲ 具シ 奉呈スル

此種を以て予が之を向て國討ノ三ノ地トス  
 不肖之ノ成金或之別之ハ此等ノ念自々禁不御以棟成  
 之陳ララ然則之成ラトス也

況辭

此レガ版新報社ノ主條也ん 空中文明協會ノ同會式  
 之有ララ 部言ラ陳ララハ何ノ幸カ之ニ若カレ  
 今ヤ諸和傳信已ニ開仰ラシク 新學ノ所 富貴ニ滿ラ而  
 カモ存高ハ使シテ國民 安邊ニ 許サ不蓋ニ 冬夜ノ 大所  
 ハハ 類ノ 往來 想初セサリシ 新而 面ラ 改古ニ 情眼ニ 覚醒  
 之ニ 際 刻チン 故 知ラ 喜ラシク 新 中 空中 利用ニ 関ラん  
 物 學 心 研究ニ 志リシ ハ 其 世 未 竟ニ 嗚ラ 嗚ラ 他スハ 吾ア  
 國 邦ハ 勿 論 幸 運 也 固 然 然レ 四 死 三 カ 為ニ 特ニ 其 面 目ヲ  
 一 形セニ 今ス 此 時ニ 際シテ 本 會ノ 開 張ニ 見ラん ハ 向ニ 株  
 宜ニ 直ニ 若ト 志スル 其 功 效 果ノ 甚 大ニ 彼 又 何ノ 難ヲ  
 以テ 他 人ノ 怯ラ 振テ 傳テ 本 會ノ 成 功ニ 祈ル 人ト 云 角

武群

長崎部内而方之海士之業日本日ラトシテ成式了  
奉ク

凡ノ業務ノ進行ヲシテ迅速ニ具シ國情ナラシムルハ強備ノ整理  
免トスル為向者ノ改革ノ地方ノ改革ニ伴フテ十數年未ノ事  
業ニ及ル方ナリ年賦ノ其積算ヲ計上シ幸ニ地方諸國政  
此電信局社ノ好意ト力トシテ初ナリ善ナリシ口忠力ヲ使フテ  
轉換ノ善法ニ成リ強固ノ強備ト聞知スル也  
此ノ年加支費ノ後奉國ノ貿易ニ更ニ好意ノ強備ト見ル  
此ノ年初最古ノ明徳場久平市ニ存スルハ交通通信ノ短縮  
カクヘク下ノ國ノ強固ニシテハ向者諸子勤知以テ其情  
ニ照シ向務成務トシ一計也元ニ割シ以テ強備ノ整理

ニ強固トナラシムル

聊カ以テ國ノ強固トシテ成務トスル



吊辭

通信技師工學博士浦田周治君他病之ヲ彼年ヲ指テ  
 二八君明治三十二年本省ニ奉職ヤシ以未勤勉若二十  
 餘年一息ノ如ク電信電話ノ國久工務ノ任ニ在リテ其  
 此ノ中ノ入跡ノ品也時局ノ困難ニ付シテ其業ヲ遂  
 加フルニ熱心者リ由信而工務強盛トシテ其業ノ宜ニテ  
 以克シ能者ヲ全クシ以情如心難老ノ者アリ一病革スマ  
 侍旨ヲ以テ其三子旭日中授意ヲ授クシ以テ其業ヲ  
 トスルニ惟ツコ本却ニ於テ電信電話事業ハク以益ニ  
 多福ニシテ其果ノ權威見君ノ午暇ニ待ツ所多シニ以テ  
 二カリキ一報計音ヲ付テ出明ク其業ヲ以テ其業ヲ  
 招来トシテ其惜ノ念自ラ其業ヲ以テ其業ヲ

鹿児島開港祝賀式祝辭

本日鹿児島開港祝賀式ニ参スルニ當リ無言ヲ述フルヲ  
 得らんハ本古尼ノ世幸トスル所ナリ  
 抑々鹿児島<sup>田</sup>ハ九州西部ノ要港ニシテ其貨物<sup>林</sup>ノ輸送  
 論ナク止時各種工業勃興ノ結果其原料製品輸送ノ  
 弁々從之増加シ茲ニ開港場トシテ指定カハニシテ其  
 知家ノ為同ノ開港ノ勝ハ不備ニハ坤輿ノ長オカクテ  
 向テ物カ一轉シテ平和ノ高航ノ入ラトスルニ決シ今以  
 各國競争ノ劇甚タルニ推測ニ難カラズ其業ヲ以テ  
 易ニ之ヲ其業ノ好業ニ向ヘリト雖モ其業ノ前途ノ  
 前途也ニト欲スハ官民一致ノ努力ヲ以テ其業ヲ  
 其業ヲ以テ其業ノ好業ニ向ヘリト雖モ其業ノ前途ノ

同



南極一環洋を圍りて帝國ノ進軍ニ資成せしむるに  
 こそ祝辭ト為ス

祝辭

最近科學ノ進歩ハ自兵力ノ征服ヲ省トシ就中航空及  
 無線通信等空中利用ノ著シク發達セルハ洵ニ發達ニハ  
 果シテ地球轉送ノ効有らんヤ列國競らテ航空機ヲ軍事  
 三任用シ輸送ヲ空中ニ盡ヒシガ今ヤ兵戈ノ喧熾ト共  
 之ヲ一般交通運輸ノ資ト供らんニ至リ國家ノ前途ハ航  
 空事業ニ待ツトシ蓋シ多カラントス是時ニ至リテ帝  
 國飛行協會ノ東京大阪間に於テ長距離郵便飛行ノ競  
 技ヲ行ハラ民衆飛行ノ發達ヲ助成ヤトシ之ヲ前者  
 謀ニテ前者ヨハ其壯舉ヲ贊シ佐藤少将ノ田中司令官  
 之由ラ更リ佐藤少将ノ成績ヲ賞讃セリ其時ハ其力  
 新紀元ヲ創スんヌトシテ後世ニ之ヲ傳ハシメテ其  
 功ヲ示セリ

祝辭

其力

祝辭  
茲ニ本日ヲトシ帝國水難救濟會創立記念式ヲ挙行セラ  
ルニ當リ一言ヲ述フンヲ得タルハ本大臣ノ欣喜措ク  
能ハサル所ナリ回顧スレバ明治二十二年本會創立以來  
年々虎々ルニト既ニ三十施設致ント完備ニ今や各地ニ  
救難所同支所又ハ救難組合ヲ設置シテ貢獻スル所極  
メラ多シ性フニ海上ノ危険ハ造船技術ノ發達ト船舶操  
縦ノ進歩トニ因リテ漸次減少ベシト云モ帝國海運ノ發  
展ハ船舶ノ激増トナリ経テ事故亦多カルベキハ自然  
ノ教ニシテ本會ノ責務愈々其重キヲ加ヘシトクモ此レ  
ハ會員諸士益積勵シテ本會ノ事業ノ大成ヲ期セラレシ  
コトナリ

丁酉勅多々以貴國ニ於テ航空事業ノ以次ニ對  
比レバ前途ノ遠達ニシテ尚ホ技術ノ鍊磨ヲ要  
スルト云フ候々多ク名ハクハ市民ヲ協セテ貴國ノ  
若造ヲ圖リヤカテ勅令ノ勅格ヲ確立スルノ日ナ  
レバ航空ニ成テ成功ヲ素彰スルニ由リテ御カシ感  
クテ強辭トス

十一月九日

祝辭

三井物産株式會社造船工場方之其工ヲ治シ本日茲ニ  
 開場ノ式ヲ舉グ惟フニ我々帝國國運ヲ存スルハ航海ノ力  
 ニ俟テ下國ヲ強クシ而シテ航海ノ人運送スル其關係極  
 マシ緊要ナルニシテ兩者併立スル非デハ決シテ海國ノ盛衰  
 凡能公ニ帝國ノ運命業ハ業ニ航路ノ繁榮ニ受ケテ若シ其  
 能カク倍大ニシテ破之ニテ此帝國國運ニシテ尙ホ一等ノ繁榮  
 増ナキ能ハスヤ寧ろ其初カラ戦アリ一轉シテ平穩高航  
 入ルニシテ此日本工場施設新ニ成リ本現送船業ニ一大權威ヲ  
 加ヘタル本工場ノ盛衰皆ク能ハスルナリ望ミテ再ニ從業ノ  
 士皆振勵精進スルヲ望ム。謹シテ此ニ帝國國運ノ盛  
 衰ニ寄與スルニシテトコアリニシテ一節ヲ希禮ニシテ祝辭トス

祝辭

日本海員振濟會大阪普通海員養成所其工ヲ治リ本日  
 ラトシテ開所式ヲ舉グ  
 惟フニ國勢ノ消長ハ海運ノ隆替ニ關シ海運ノ存廢ハ  
 後良ナル海員ノ充實ニ俟リカスルナリ我々海運界ノ航  
 船ノ増殖航海ノ擴張ニ因リテ強ニ興業ノ發達ヲ為ヤリ  
 ト雖モ海員ノ補足勉テ之ニ別カス且ツ其養成所下ノ  
 學業ヲ開クハ尚モ遺憾ノ極トスルニハ事也凡ソ航海ノ術  
 ヲ教テリテ其航海ノ術ヲ治リテ始マラズニシテ如上ノ理  
 勢念ニ勤者ナルヲ定メ日本海員振濟會學堂ニ於テ是  
 以テ其本所ノ創立ヲ快クシ以テ其航海ノ術ヲ教テリ  
 其養成所ト相待テ多量ノ海員ヲ養成補給

本工トス漢ノシハ高市ノ諸子奮勵ヲ力ク其昔  
 的ヲ達シ以テ邦家ニ寄ル所也之ニ工トクニ言ハシ記詳トスル

祝辭

46  
 本初市が市制施行及び第一取水開通ノ三十年記念式  
 々併シテ慶祝スルニ奉リ茲ニ陪席ノ業ヲ修スルニ  
 幸トスルナリ本市ノ発展ハ諸君ノ奮勵ニ由リ一  
 獨りシカ、我輩同僚ノ後進也、後進者ハ以テ世  
 々之ニシテ、速ニ工業、交通、運輸、衛生、教育  
 力在事ニ其成績也、教養ノ事トスルニ、同僚  
 諸君、以テ之ニ努メ、本市ノ電力、供給ニ由ル  
 本國ノ形ノ人、其電力ノ事業ノ盛衰トスルニ、  
 長足ノ發展ヲ得ルニ至ラシ、電力ノ事業ノ盛衰  
 トリ、之ヲ下ラサシムル、其電力ノ事業ノ盛衰



カラ配給に克う思ふ人地ありけり  
 又ノトイふし今や工業の勃力ノ電氣化の必要ノ  
 甚勢ニシテ其結果電力ノ不足ヲ防げしむるカモ電氣  
 事業ノ発展ハ國運ノ盛衰ニ關スル所ナリ  
 此ヲ予ハ世業向レノ為ニ本社者事者カ一層ノ奮勵ヲ即  
 體ニ併セテ社運ノ將來益ハ際易キ事ナリトテ  
 新トテ  
 備

祝辭

備

吳郵便局令ノ改良工事方ニ竣レ本日の二ノ月成事ナ  
 事少抑也實務ノ成績ノ良好ナルハ設ク完トスル  
 転局トシテ倍々利便ナリトシテ為局令ノ如キ風ニ組織ノ元  
 整ラ給トスルヤ豫定ノ工程ヲ済ム所好シシ施設亦ノ間に  
 久人仙ナキニ為レ惜フニ平和更ニ改メ今日ノ對外ノ貿易  
 ハ益々隆盛ニ赴クナリ材力通信事業モ日ヲ進ラテ好利  
 ナリ加フニ中々ト國々ノ強ナリトシテ  
 業勤ニテ社業ノ盛衰セリシニ  
 一ノ口一語ヲ陳ラニ或シテ  
 力

式辨

吉瑞の能く

日本海軍提督カ三十九回定武提督に降し其成徳ノ益  
 良好トシテ日昭セル日本大臣  
 幸ニトテ成立シテ上ニ遊之海上ノ競争ハ一層ノ劇ヲ加フニトシ  
 後者千ん海軍ノ需要ハ強ニト底止スル所ナシ本軍力果シテ  
 出海多ク飛成方倍々改善シ且ツ高等海軍養成所ヲ増設  
 セシハ誠ニ林直ニ適シク指圖トラスニ如シト也海軍ニ固  
 ク人國海軍提督御命儀將ニ閣條セラレトシ其カ國ニ代表者  
 魚ヲ商價スル現況ニ鑑ミハ本軍事業ノ刷新擴張  
 ヲ要クモ一ニシテ足ラズ其任職更ニ重キヲ加ヘテ  
 ハトト彼タ言フ儀ナク坐ケラリハ等自派子本軍力高調  
 一海軍ニ世ニテ榮光ニ因係ラ有スルニトテ急ニ夙夜

十二日

ニ奮勵シテ其大成ヲ期セシムニトテ一言此ニ式辨トカヌ

式辭

帝國水難救済會ハ近時益々規模ヲ擴張シリノ概況ハ  
 全國ヲ通ジテ七十ノ多キ長シ成績顯ニ觀ルベキモノ  
 是レ會員諸君ガ努力ノ結果ナルト**昔**何レ疑カズ  
 今ヤ世界ノ平和ヲ期スルニ外國病シク経済上ノ國際  
 競争ニ力入リ時期ニ到ラセリ是レ於テ力内外如斯ク純  
 領ニ邦際ニ起リテ阻礙ニ事無ク亦ヨリ自ら増加ノ欲  
 向フ人ノ業ニ趣キ免レサルハ水難救済會事務擴張ニ對シ  
 事務繁シキ本會委員更ニ重キヲ加ヘ又本國ヨリ寄ラ  
 信ヨリ望ミテウレノ爲メ諸君子更ニ如上ノ熱心ヲ示シテ  
 ノ振務ヲ圖リ以テ救済會ノ救済ニ益セラルンコトヲ  
 共ニテ式辭トス

式辭

帝國水難救済會ハ所次ノ規模ヲ擴張シ成績ノ顯  
 著キモ一歩多ク力スルニ採ル本會ニ於テハ固ク救済會ニ  
 同支所也トシテ救済會ニ力入リテ本會トシテ  
 ニ支那ノ救済會ニ事ヲ是レ會員諸君子起テ上理事會  
 何事直ニテ好免トシ起固ク人ト國ヨリ務メテ救済會  
 本會ハ即チ本會救済會ノ地ニシテ二十年以來初メテニ  
 見ル誰カ救済會ノ会ニ加フ人ニ其意ニ感ズルベキモノ  
 其様子ニ於テ多ク諸君子ガ熱心ヲ起テ下ノ海運ノ  
 改善トシテ救済會ノ利益ニ多ク寄ラシメテ國ヨリ以  
 テ者初メ立ノ目的ヲ成ラセラルンコトヲ望ム





不詳

通信事務及補大山守君ノ運玉ニシテ

君ヨリ信三十三等ノ月初カニ後ニテ亦執ル事也  
伊呂ノ事ニ日露戦

兵ニシテ戦部伊呂ノ事ニ在テシテ二十等ニテ日露

戦ノ始ニ始通信係在ノ事ニシテ一節ニテ伊呂ノ事ニテ

見レテ

(補)

大正九年九月西伯利亞兵ノ事ニテ又再々

部使而見レテ上ノ事ニ由通信係ノ要職ニテ有リ

精知ニシテ後ノ事ニテ三月ニテ一帯ニテ先景人

掩撃ニシテ事ニシテ軍隊ノ其ニテ一帯ニテ先景人

敵ニシテ百ノ生靈書ク毒年ニテ陰ノ事ニシテ

ト伊呂ノ事ニシテ一帯ニテ先景人ノ事ニテ

兵ノ日ヲリトシテ一帯ニテ先景人ノ事ニテ  
一帯ニテ先景人ノ事ニテ

オモツウノ事ニシテ一帯ニテ先景人ノ事ニテ  
一帯ニテ先景人ノ事ニテ

在天ノ靈ノ事ニシテ一帯ニテ先景人ノ事ニテ  
一帯ニテ先景人ノ事ニテ

武評

コレ二全洋貯金支品ノ周成ヲ奉ルニ際シ去反事考  
 同業本邦自光臨ノ各任ヲ始メ其地有以ガ高下局ニ寄也  
 一見起心ハ向柱ト收揚ト討テ分一深ク御意ヲ表シ  
 抑モ勤儉貯蓄ノ奨励ノ用ニシテ其地ニ安固ニ進テ  
 其有以全ク其地ノ久遠ニ全融積固ニ定備ハ公和恒所  
 ノ相成ヲ務メ多財力ノ運用ヲ固守ニ志クトモ國刀仲所  
 仲ノ本邦ニシテ郵便貯金ノ振替貯金制ニ及リ如待久所  
 毛存多蓄ニ志スルニ至リテ其地ノ方況況大甲ニシテ此所  
 此ニ貯金支局ヲ設ケ遊息トスルニ其地ノ自由ニ進出  
 去ルルニ年計ヲ行ハスルニ其地ノ振替ノ成績ヲ収メ  
 戸ハ此種貯蓄ノ業ニシテ其地ノ共ニ其地ノ業ノ一



世ナラ奉ルテモニシテ(別)亦ハ度奉ルニ至リ(不)獲ツルハ  
 皆来此所同ノ利用ヲ得ニ益事業ノ者存見  
 ルニ至ラシムル

祝辭 (マツ後ニカ)

神戸海運集会所新ニ成リ本自茲ニ創立式ヲ奉テク地ニハ  
 林ノ海運ハ地球大戦中ニ於テ其地ノ振替ノ成績ヲ収メ  
 親ルニ年加如シト雖モ之ガ大成ヲ望ムニ下流ニハ開港ノ補直ニキ  
 一ノ亦多決シテ其地ノ本邦ノ中ニ即シ其地ニ至リ其地ノ業  
 達ニシテ其地ノ業ヲ振替ノ便ニ振替ノ業ヲ振替ノ業  
 ニ至リ其地ノ業ヲ振替ノ業ヲ振替ノ業ヲ振替ノ業  
 業ヲ振替ノ業ヲ振替ノ業ヲ振替ノ業ヲ振替ノ業  
 尚ニ振替ノ業ヲ振替ノ業ヲ振替ノ業ヲ振替ノ業

其の常多 全うなるとして、一言の記録とする

良田に良種を栽ふが其一を缺く徳も有り獲る所あり  
雨石は引越相識りやかりし、関係の上にならざる  
徳信事書に亦出ぬ、小田へして、経事書の十  
分なる者、  
~~徳信事書~~ 叙小其の、  
あつた、  
徳信協会の、  
一、  
し、  
の、

十  
廿  
四

河内高  
の措  
置

か、  
こ、  
家、  
意、  
解、  
を、  
を、  
を、  
を、

十  
五  
六

を、  
を、  
を、  
を、

而新

此乃哲時在馬關事船友村上吉以印君ノ重ニ寄テ  
 異ノ伊國之珍ヲ國陳若御屋儀ノ同儀モ人ノ中君亦  
 夕達ハレテ本御使節ノ一行ノ阻ハ其事終ニ終ニ周旋カ  
 外力ハ此カモ國ヲサリテ幸儀ノ時ノ終ニ此ノ久ク不  
 幸ニシテ二重ノ罪カレ瘡者歎テテ遠馬事トシテ異所ノ者  
 寓ニ西カシトハ海邊莫里遠ノ道者ノ親クシ本口者ノ  
 遠者式ニ寄テ此ノ海ノ名情ノ折衷ニ寄シ  
 男人物多厚ニシテ思々健楚ツノ強者ノ重ニシテ事終ニ  
 此心ハ其ノ信也幸儀カテ強ク道信者其内ノ事ナ  
 ルトト十年信儀道信向ニ計馬却使而ニ為標也其而  
 ニ到ル遠慮あり其ノ道信事其事カカ人ノ信事ニ即行

新

乃心ニ其カレリコト天輝ニ其事ヲ存カテ信ニ寄ル  
 乃心身合布ニシト此カレ君カ考信ハ其ノ何カ人知中其物  
 便有ニ直ラシカレ其カレ其カレ其カレ其カレ其カレ其カレ  
 此ニシテ其カレ其カレ其カレ其カレ其カレ其カレ其カレ  
 其カレ其カレ其カレ其カレ其カレ其カレ其カレ其カレ  
 一言ハレテ其信トナス



達しつる事草草の楷法を信せしむる如し

孝文

時維大正丁卯四月二十一日僅に下詔の案盛く皇太后御  
四項御職御土々あり侍也其靈を告ぐ諸士也通信経事  
皆之在也此は御勅諭勸風夜意も又不幸この事あるを  
他は有恩世々鮮に之を重んずるに帰るに何謂らん乎ん  
又此御座下とて之を哀れ相見しつて士を以てりる事乎ん  
一誠を以て死に之を以て出たり御職を全うせんといふ其  
概下あり侍士一御即や之を哀れ相見し御信事草とし  
是亦御座下とて之を哀れ相見し御信事草とし概下あり  
士之遺詔を存同とて之を哀れ相見し御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し

皇の御下とて之を哀れ相見し御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し

或新

孝文の佳居とて之を哀れ相見し御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し  
此名は御座下とて之を哀れ相見し御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し  
本乃皇の御座下とて之を哀れ相見し御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し  
御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し  
高皇の御座下とて之を哀れ相見し御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し  
孝文の御座下とて之を哀れ相見し御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し  
御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し  
御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し  
御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し御信事草とし御座下とて之を哀れ相見し

諸運亦多難大難多事也... 世の常事也... 世の常事也... 世の常事也...

此等ノ将軍益々隆昌ナリト云フ所... 邦力甚強ク...

帝國水難救済會信託會式新

帝國水難救済會信託會式新... 帝國水難救済會信託會式新... 帝國水難救済會信託會式新...



海運ノ重要ニ至ルニ至ル... 海運ノ重要ニ至ルニ至ル... 海運ノ重要ニ至ルニ至ル...

日本海運協會信託會式新

日本海運協會信託會式新... 日本海運協會信託會式新... 日本海運協會信託會式新...





乃様ノ共ニ固キ信ニ隔シテ来下長距離直通電信ノ  
 為リテホトクニシ下如キ有ル人ノ林國ノ設置ハ林力國  
 之能ク討外通信一南自之始ニ及テ世ニラ国際間ノ純  
 善無世ノ世界ノ中ナリ確信久ク之程ヲ直叙ス所國  
 子方ホチンク新米者ホクハ從事ニ預キ協力ニ致其業  
 用ヲ敏化トシ幸ト如上如待々包存スルニ言ニ或辭トス

祝辭

日本海軍増備ノ日本主張ノ高初案ノ以病院、新軍方  
 之其工ヲ誇リ本ノ意ヲ表云々  
 情ニ林力國海軍ニ依ル下海軍ノ多ク、且  
 海運ノ隆興ハ海軍ノ充實ニ依ルカニ  
 本意ガ之ヲ海軍ニ養成保護等ノ但ナリ、且之ヲ



ニテ後述ノ是カニ示レテハ、  
 國ニシテ六六ノ國ヲ論ニシ、  
 其後ニカニ示レテハ、  
 本ノ新軍員ノ度ニテハ、  
 命ノ治士ヲ格勵粘盤ニシテ、  
 一ニテラ祝辭トス

祝辭

帝國水産協会の創立以來、  
 多クノ功績ヲ著スルニ、  
 此後之ニ基テ更ニ之ヲ伸ブ  
 ノ中ニ多ク現シ、  
 ノ智ヲ力ニシテ、

130

之

時

大に観念す人、陀ひ多水難取備之國を施設す、交備る  
 其の事に愈々之際即ち人として之に相違中平業、  
 其の跡より其の進境固より彼其より之に雖元之其意  
 陳、必要下に利同、況況下に此此之、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、

### 祝辞

本日の刷局創立幸年記念式及口故印刷局長一蔵技監此能  
 良介君 銅像除幕式、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、



等々

日通

立之新式刷機之輸入と云かり 財素、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、  
 其の感ノリ、

トナス

感

櫻井吉藏翁頌徳の礎

山の麓多きるも或は嶽の何の洋とたるも時に潤ふ常住  
 は望むやかりずして有路有物の路を歩みたり唯か仁人  
 の徳澤は百世に傳へし長いつに泯滅せず美争何を堪ん  
 之をよほに比せむや櫻井吉藏翁は上總國山武郡三川村  
 の人樸直にして孝悌風に仁人を以て慕慕に聞こえを  
 の志ざすとこり公衆の福利に關せざることなし明の治の  
 初國家新に學制を布いて大に文教を奨めたるや翁幸先  
 て御生を擧げざるの議を唱へて益々若干の學費に於て  
 小一が尋ひて十二年に至る獨力巨費を擧つて善道小  
 校を校舎を設けし敷地と共に立を御遊に寄附せしむる  
 ありし事運りし校ありし補ゆしと教書の善及る圖りし外

村の改善社寺の修葺等に就いて絶えず書癖せり小者  
 といふこと功を奏し官よりのお賞其善なる表彰なり  
 金の餘金を捐てり小者より既に十有五年村に其修葺に  
 寄して道邊の古舎を改修せり也相傳つて長ししん近頃  
 廿五しものまた庶民がまきあゆし去年の末村舎其修  
 繕に難めりゆめに待ん村舎を以て神を祀るに建つるこ  
 とを以て謝し鳴り人をありて文を以て示しりるる其修葺の  
 功に謝し鳴り人をありて文を以て示しりるる其修葺の  
 し仍る行希の標帳を教ふること此のやし

惟今坤輿を履き棲居寰宇に當り早晚常に世界の大事  
 主たること大なり乎帝國を以てその天貴の使命を全しや  
 りぬん平時は戦時を以て同くする事海上に生れ物皆我  
 身克く聲望の隆也冒し不軌の活動を為しつるある者は  
 無ん秋か高好の海を流るん恨むや

兼い紅霞の役に際し村の陸兵も擁護し勇放する敵  
 前上陸を遂東やせん決行せりめらるる士は測りし  
 浦鹽船隊の要撃を意とせず暗潮の海燈航海日同りて  
 是の軍大任務を突了し勝つたる海軍の旗を以て等しく  
 従来村を親視したる島事人と習知せりめらるる士は測りし  
 とその戦線にありの意氣を以て一帯を奪い村の商  
 船の海を流るん恨むや



いづれに均し海上の動静に服するに物なきは物儀の故  
や海軍特務士業か諸國神祕の旨附りしに千枚に部なるん  
ありやか高野の海軍特務士は特務隊はあらずし元々といふん  
不死の鬼なる一ありて法に其の旨附りしは唯下身軍葬に在りて  
とん固くといふもの功績の厚相尋ししに高野の三に解す  
とんいづれに均し海上の動静に服するに物なきは物儀の故  
や海軍特務士業か諸國神祕の旨附りしに千枚に部なるん  
ありやか高野の海軍特務士は特務隊はあらずし元々といふん  
不死の鬼なる一ありて法に其の旨附りしは唯下身軍葬に在りて  
とん固くといふもの功績の厚相尋ししに高野の三に解す

その事傳りしに感ずるに平時を戦時と異にするは高野の海軍特  
務士業を考へて其の功績をたしむるに高野の三に解す  
水本は高野の地を皇城に建ちしむるに範圍内の邊境に在りし  
祠宇を建ちしむるに高野の三に解す  
古世の末に三つともを考へて其の功績をたしむるに高野の三に解す

世の世に均し海上の動静に服するに物なきは物儀の故

や海軍特務士業か諸國神祕の旨附りしに千枚に部なるん  
ありやか高野の海軍特務士は特務隊はあらずし元々といふん  
不死の鬼なる一ありて法に其の旨附りしは唯下身軍葬に在りて  
とん固くといふもの功績の厚相尋ししに高野の三に解す

